令和７年度　　帯広市立柏小学校経営方針

1　教 育 理 念

○変化の激しい未来社会を生き抜くための「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう姿勢」を育成し、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成を目指す。
○教育活動の成果を子どもの姿で表し、学校の説明責任を果たす。
○全教職員が愛情と責任をもって学校経営に参画し、地域とともにある学校づくりに努める。

2　学校教育目標

★重点

★強　く	強い心と体で　ねばり強くやりぬく子ども
★正しく	確かな知識で　よく考える子ども
○明るく	明るく　きまりよい子ども
★清　く	心豊かで　思いやりのある子ども

3　経営の基本方針

学校づくりのキャッチフレーズ

夢いっぱい　笑顔いっぱい
希望あふれる柏っ子

柏っ子の３つのＣ

「Chance：チャンス」　みんなの今が大切にされ、明日への希望につながる活躍の場

「Challenge：チャレンジ」　挑戦し続ける力、共に協力し乗り越えていく力

「Change：チェンジ」　一人一人の確かな伸びを実感し、なりたい自分に一歩ずつ

～ 一人一人の今を 未来を大切にした笑顔あふれる教育の推進 ～

■　子どもがいるから学校がある。学びの主役は子どもであり、主体的な学びを支援する伴走者としての教師の役割により、子どもたち一人一人の可能性が引き出される場である。
■　今日的な教育課題や学校の課題を明確にとらえ、本校の特色を生かしながら、個別最適な学びと協働的な学びを実現する「令和の日本型学校教育」の構築を目指す。
■　学校は安全で安心できる場でなくてはならない。常に危機意識をもち、感染症や熱中症への対策、事故やいじめの未然防止等を重視し、全職員で協働する。柏小学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行う。
■　子どもを中心に、学校・家庭・地域が教育課程を共有し、役割分担を明確に連携・協働する「地域とともにある学校」づくりを目指す。
■　公教育に携わる専門職として、広い視野や先見性、決断力・実行力をもち組織マネジメントを生かして業務改善を行い、「チーム柏」で組織として機能する活力ある学校経営を進める。

4　めざす学校像

～ 「おはよう」から「さようなら」まで安心して学べる元気な学校 ～

○子どもにとって、　『笑顔で登校、笑顔で下校できる学校』
○保護者にとって、　『子どもを通わせたい学校』
○教職員にとって、　『働きがいのある学校』
○地域にとって、　　『期待と信頼を寄せ、応援したくなる学校』

5　重点教育目標

★『かしこく』正しく 確かな学力【知育】	■確かな知識で　よく考える子ども 〇基礎的・基本的な知識・技能、学び方を身に付けている子 〇課題を見つけ、主体的に課題解決しようとする子 〇自己の考えをもち、学び合いのできる子
★『やさしく』清く 豊かな心【徳育】	■心豊かで　思いやりのある子ども 〇自信をもち、自らの目標に向かってやり抜く子 〇互いのよさを認め合い、協力して活動する子 〇他人の苦しみや悲しみに気付き、考え行動できる子
★『たくましく』強く 心身の健康と体力【体育】	■強い心と体で　ねばり強くやりぬく子ども 〇健康と安全を考えて生活する子 〇物事をやり遂げる気力と体力のある子 〇粘り強く、あきらめずに最後までやり抜く子

6　重点目標とその視点

（1）確かな知識で　よく考える子どもを育てる　『かしこく』正しく

■『確かな学力の定着』
- ○全校で統一した基本的な学習態度（柏スタンダード）を定着させ、学習規律の徹底
- ○ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業の構築
- ○ICTを活用した授業改革　○個別最適化したオーダーメイドの学び
- ○基礎・基本の確実な定着、　思考力・判断力・表現力の育成
- ○学ぶ意欲の向上と多様な学び方→自ら学び自ら考える力を育てる指導の充実
- ○全国学力学習状況調査・標準学力調査の組織的な分析と授業改善
- ○主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習過程改善
- ○質の高い日常の授業実践→表現力の育成、授業力向上に向けた校内研修の充実
- ○各教科、特別の教科 道徳、外国語、総合的な学習の時間、特別活動などの全体計画、指導計画、評価基準の改善・見直し

（2）心豊かで　思いやりのある子どもを育てる　『やさしく』清く

■『明るく豊かな心の育成』
- ○規範意識の醸成、生活規律の徹底（あいさつの励行・廊下歩行）
- ○自他のよさを認め、他を深く思いやり、健康で明るく、心豊かな児童の育成
- ○「特別の教科 道徳」や全教育活動を通した豊かな心を育む道徳教育
- ○いじめ・問題行動の未然防止の基盤となる学級づくり
- ○共通理解のもとでの組織的な生徒指導体制の構築
- ○アセスをもとに実態把握を計画的に実施、発達支持的生徒指導を行う
- ○いじめ・不登校傾向の子どもへの積極的対応→未然防止・早期発見・早期解決
- ○不登校対策総合実践事業→校内教育支援センター
- ○個に応じたきめ細かな指導→児童一人一人のよさを尊重し、児童理解を深め、特別支援教育を組織的に推進
- ○働くよさ、役割を果たすよさ、互いのよさを子どもが実感できる指導へ
- ○人間尊重の精神を基盤とした、家庭・地域との連携強化
- ○地域人材の活用、翔陽中エリア・フファミリーにおける情報交流
- ○図書ボランティアの活用やどんぐり塾、学校支援地域本部の推進
- ○おびひろ市民学の出前授業

（３）強い心と体で　ねばり強くやりぬく子どもを育てる　『たくましく』強く

■　『健やかな体の育成』

○体力テストの組織的な分析をふまえた目標設定と振り返りを意識し、運動量を確保した体育の授業改善
○基礎体力・運動能力の向上と育成→休み時間などの遊びを通した運動の日常化、外遊びの奨励
○危機管理体制の整備と見直し、防災・避難・安全教育の充実（考える訓練）
○勤労意欲や根気強さの育成→係活動や委員会活動、栽培活動や奉仕活動など
○外部講師の活用（薬物乱用防止・防犯・防災・ネットリテラシーなど）
○確実なアレルギー・怪我・校内事故対応
○家庭との連携による「早寝・早起き・朝ご飯」の推進
○基本的生活習慣の確立→保護者・子どもの意識啓発の一層の工夫改善

７　学校経営の具体的方策

１　学校経営	教職員の英知と努力を結集し、エリアで目指す子ども像「ふるさとを愛し、地域づくりに貢献する人」の素地を育てる学校経営に努める。 ①十勝管内教育推進基本方針や帯広市学校教育指導の重点に基づき、学校教育目標の達成を目指す計画の具現化と焦点化に努める。 ②教職員の信頼、責任と協働のもとに、組織的・機動的・実効的な活力ある校務運営に努めると共に、働き方改革を念頭に業務改善と勤務管理を推進する。 ③保護者・地域との連携・協働を深め、意見や評価を積極的に活用して学校改善を図り、創立百年を超える伝統校としての責務を果たす。
２　学年学級経営	学校教育目標・経営方針の具現化を目指す学年・学級経営案に基づきながら、共感的児童理解のもと、児童が自尊心を高め、自己有用感や安心感をもつ経営に努める。 ①共感的児童理解のもと、児童が自尊心を高め、自己有用感、安全・安心感をもつ経営に努める。 ②学級開きを重視し、年間・学期間の見通しや山場のある学年・学級経営を推進する。 ③問題行動の早期発見、適切な対応に努める。（負の事案ほど迅速な報・連・相・確・記） ④深い洞察力・謙虚さと傾聴・説明責任を重視した開かれた学年学級経営に努める。
３　特別支援教育	特別な支援を要する児童一人一人の教育的ニーズの把握、適切な指導及び必要な支援を全校体制で行うとともに、その成果を全ての児童の教育活動に生かす。 ①ユニバーサルデザインと合理的配慮を学校運営の基盤とする。 ②特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教育に関する理解と専門性を高め合う研修を行う。 ③特別な教育支援を必要とする児童に対応する、全校指導体制の工夫と改善を図る。（特別支援補助員・介助員・教育相談員の活用を含む） ④長期的・短期的な目標の設定と、個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成、実践と評価を進め、個を見取る力を高め合う。 ⑤保護者との定期的な面談を重視し、指導内容の承諾や結果責任の明確化に努める。 ⑥専門機関・関係機関との連携を密にし、アセスメントの質を高める。

4　教育課程	三つの側面を重視したカリキュラム・マネジメントにより、学力の向上やシチズンシップの育成を実現する、社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。 ①「生きる力」を育む、知・徳・体の調和のとれた社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善に努める。 ②多様な学習活動を組織し、集団と個別（個別指導・少人数指導・習熟度別指導・ＴＴ等）を活用し、基礎・基本の習得と活用を図る指導を推進する。 ③指導時数の工夫や確保に努め、教育課程における各教科等の関連を図り、横断的・効果的な指導及びその工夫改善を図る。 ④外部講師や地域の教育資源を効果的に活用し、カリキュラム・マネジメントを協働的に行い、教育の質を高める。
5　教科指導	個別最適な学びと協働的な学びを展開する授業改革により、主体的・対話的で深い学びを実現し、学力の向上とシチズンシップの育成を図る。 ①ＩＣＴを活用した授業改革を進める。 ②学力テスト・標準学力調査・体力テストの結果分析から学校改善プランを作成し、目標の達成を図る。 ③一人一人に応じた指導方法の工夫改善を図る。（個別指導・少人数指導　・習熟度別指導・ＴＴ等） ④柏スタンダードの確実な定着を共通理解し、徹底に努める。 ⑤単元の目標を基盤に、見通し・振り返り・確認を重視した「わかる」授業を展開する。 ⑥ユニバーサルデザイン化を重視した授業構築を図る。 ⑦言語活動の充実。書いて説明する活動、ペアやグループでの対話、アウトプットの重視。 ⑧言語環境の整備。適切な言葉遣い・言葉がけ、適切な掲示物。 ⑨各種教材教具・ＩＣＴ機器などの効果的活用やプログラミング教育の推進を図る。 ⑩家庭学習の工夫を図り、「習得・活用・探求は学校で、習熟は家庭で」を目指す。
6　生徒指導	保護者・地域・関係機関と連携し、深い児童理解と信頼関係に基づく生徒指導の充実を図る。 ①共感的理解に基づく児童理解を進め、一人一人の個性を生かすと共に、児童の発想や主体性を伸ばす活動を通して、自律性を育てる。 ②教育相談機能を高めるとともに、アセスを実施し、実態把握を計画的に行い、発達支持的生徒指導を行う。 ③いじめ・暴力行為については、柏小いじめ防止基本方針に基づき、迅速且つ適切に対応し、未然防止・早期対応に努める。 ④初期対応を誤らぬよう報・連・相に努め、組織的に情報・行動連携し、解決を図る。 ⑤関係機関との連携も視野に、謙虚さと傾聴を基盤とした家庭との共通理解に努める。 ⑥実効性のある生活目標の取り扱い方を工夫する。 ⑦基本的な生活習慣を形成し、児童の自立と共生を目指す。

7　道徳教育	考え・議論する道徳科の授業をつくり、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 ①教育活動全体を通じて、道徳的心情・判断力・実践的な態度の育成に努める。 ②考え・議論する道徳科の授業へ、道徳の授業改善を図る。 ③ボランティア活動や栽培活動等、豊かな体験に基づく道徳教育の充実を図る。 ④家庭や地域、翔陽中エリア・ファミリー等との連携を図る。（人材活用・道徳参観日・エリア内交流など）
8　特別活動	望ましい集団活動を通し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、よりよい生活や人間関係を築くシチズンシップの素地を育てる。 ①各種行事の内容の工夫改善に努め、児童が主体的・協働的に課題を解決する資質を育てる。 ②儀式的行事について、適切な指導、ねらいに即した運営に努める。 ③児童会の組織や活動とシチズンシップを育成するための意識・知識・スキルとの関連を図り、市民性の素地を育てる教育活動を展開する。
9　健康安全	絶えず危機意識をもって児童の生命を守り、保護者・地域と連携しながら健康安全に対する習慣や態度の育成を図る。 ①生命を尊重する心や健康・安全に対する実践的態度を育む。 ②喫煙・飲酒・薬物乱用の防止、性に関する指導・虫歯予防等の指導に努める。 ③帯広市のフードバレー構想を理解し、食育を進め、望ましい食習慣を身に付けさせる。 ④事故にあわないための危険予知能力の育成に努めるとともに、施設設備の危険箇所点検等を定期的に行い、事故の未然防止を図る。 ⑤一般事故に際しては初期対応の重視に心がけ、適切な処置を行った上、必要な連絡・報告・記録等を行う。 ⑥保護者への連絡は誠意をもって行い、必要な要件を確実に伝える。 ⑦日常的に、学級担任と教護教諭との情報連携に努める。 ⑧自らの健康や体力の向上に取り組む習慣づくりを行う。 ★体育の授業改善、遊びの重視　★体力テストの実施・活用・目標設定 ★体力づくりの場の設定 ⑨救命・エピペン講習（アレルギー対応）を全職員へ実施する。
10　研　修	学校経営方針に基づく校内研修の確立と計画的な推進に努め、教えるプロとして授業改革を通じて、資質や専門性の向上に努める。 ①公教育に携わる専門職としての自覚と専門性の深化を図る研修の充実に努める。 ②校内研修のねらいや内容について全職員で共有し、見通しをもちながら相互の進歩を感じ合うことができる企画運営に努める。 ★校内研修の充実（学力やICT活用指導能力の向上） ★A.TからALへ授業を変化させる（主体的・対話的で深い学びを実現する） ★学校教育指導を活用した校内研修の充実・発信 ③謙虚な心で、先輩からは知恵を後輩からは感性を学び、教師力を磨く。 ④開かれた実りある研修を目指し、翔陽中エリア公開研究会、各種研修講座や各校の研究会への積極的参加と学校内外からの研修の交流を進める。 ⑤自ら専門職としての厳しさを求め、磨き合う研修にし、柏での出会いを生かす。 ⑥教育の今日的課題に対応し、時宜を得た研修を志向する。

11　総合的な学習の時間	学習指導要領を踏まえ、育むべき能力を重視した全体計画に基づき、カリキュラム・マネジメントの三つの側面を生かした質の高い教育活動を展開する。 ①自ら課題を発見し、知識・技能を活用しながら課題解決に向けて探求する「主体的・対話的で深い学び」の構築を目指す。 ②おびひろ市民学（環境・福祉・防災・食育・町づくり・伝統文化）を通したシチズンシップ教育や地域に根ざした単元（国際理解・キャリア教育）の実践を充実させ、年間指導計画の改善に努める。 ③情報活用能力・ＩＣＴ活用能力、プログラミング思考力の育成を計画的に推進する。 ④ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価等を取り入れ、探求的学習の評価を工夫・改善する。
12　国際理解教育	国際理解教育のねらいを理解し、教育活動全体に位置づけ、児童の発達段階を考慮して計画的に推進する。 ①国際理解教育指導助手、国際交流員などとのふれあいを通して、コミュニケーション能力の育成や異文化理解を図る。 ②多様な文化の違いに気づき、それぞれの生活・習慣・価値観を理解し、協調していこうとする態度を育てる。
13　外国語科	外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質能力を育てる。 ①外国語に関する知識を理解し、聞く・読む・話す・書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付ける。 ②身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 ③外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
14　外国語活動	外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションの素地となる資質・能力を育てる。 ①日本語と外国語の音声の違い等に気付くと共に、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 ②身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 ③外国語の言語や背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
15　図　書　情報教育	学ぶ楽しさを提供する学校図書館を目指し、学校図書館の整備や読書活動の充実を図る。 また、情報活用能力（プログラミング的思考）の育成に努めるとともに、情報社会に活用できる資質や能力の育成に努める。 ①図書館の情報センターとしての機能を整備充実すると共に、読書指導の計画的な実践と指導の充実を図る。 ②学校図書館活性化支援事業の推進やボランティアとの連携を図り、図書館教育の充実を図る。

	③ＩＣＴ機器、視聴覚教材などの活用力やプログラミング的思考力の育成に努める。 ④情報モラルを身に付けさせ、正しい情報の活用や安全等についての知識を深める。 ⑤個人情報の保護に対する理解を深め、セキュリティに対する校内体制の確立を図る。
16　キャリア教育	夢や目標をもって、他とかかわり合いながら、自分らしさを伸ばそうとする児童の育成に努める。 ①自己及び他者への積極的関心の形成・発展に努める。 ②身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上を図る。 ③夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得。 ④勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成。
17　食　育	体験活動を通して「食」に関する知識と「食」を選択する判断力を習得し、健全な食生活を実践できる児童の育成に努める。 ①「食」に帯する体験活動をとおし、正しい知識や、安心安全な食を選択する力を習得する。 ②免疫力を高める食事や生活習慣について理解を図る。 ③望ましい食習慣を身に付けさせ、食に対する感謝の心や自己管理能力を育成する。 ④給食センターとの連携に努め、給食のアレルギー対応を厳格に進める。
18　教育環境	学ぶ意欲と豊かな心を育てる環境の整備に努める。 ①教師が最大の教育環境である。言葉遣いや表情など自己研鑽に努める。 ②児童の心に潤いとやすらぎを育むよう、校舎内外の環境整備（快適環境）に努める。 ★学習環境の充実　★学習の足跡　★整理整頓　★計画的な掲示や展示 ③特別教室の整理整頓と施設や設備を大切にする習慣付けに努める。 ④外国語教育への意欲につながるような掲示物や掲示コーナーの工夫に努める。 ⑤美しい花などで満ちた花壇や学校園、潤いのある学校環境づくりに努める。
19　家庭地域連携	保護者や地域と目指す子供像を共有した「地域とともにある学校」の実現に努める。 ①保護者・地域と連携し、エリア・ファミリーを基盤とした小中一貫教育の推進に努める。 ②コミュニティ・スクール協議会を中心として、地域総ぐるみで学校運営の推進に努める。 ③各種便りや学校ＨＰ等により、指導方針や教育活動の様子を伝え、その周知に努める。 ④誠実な対応・謙虚さと傾聴・説明責任・報連相確認を重視した保護者対応に努める。 ⑤保護者・地域・関係機関と連携し、望ましい生活習慣の定着を目指す。 ⑥地域の自然や人材などの積極的活用を行い、学校支援ボランティアとの連携を強化する。

20　危機対応その他	説明責任を果たす学校公開に努めるとともに、危機に適切に対応できる学校をつくる。同時に、職責を自覚し高い倫理観で不祥事の未然防止を図るなど、信頼される学校づくりに努める。 ①教育実践の日常的な公開と実効性のある学校評価（学校関係者評価）の実施と公表により、学校の説明責任を果たす。 ②学習指導要領を確実に実施し、カリキュラム・マネジメントの三つの側面に基づきながら、組織的・協働的に学校改善を推進する。 ③日々の研修と言葉がけ等により、Ｋ（交通違反）Ｔ（体罰・不適切な指導）Ｓ（セクハラ）　Ｂ（暴言）の防止とＡ（安全）の保持を実現する職場をつくり、服務規律の保持徹底に努める。 ④「危機対応のさしすせそ」で対応する。 （さ～最悪を想定し し～迅速に す～素早く せ～誠意をもって そ～組織で） ⑤不登校対策として、教職員の情報共有や連携を日常的に行う。 ⑥危機管理マニュアル（防災規定）の見直しを進めるとともに、防災教育・避難訓練の工夫改善（考える訓練へ）に努める。 ⑦感染症や食中毒にかかわる危機管理の対応を徹底する。 ★手洗い・うがいの習慣化　　★日常の健康観察 ⑧不審者にかかわる危機管理の対応を徹底する。 ★来校者の確認　　★避難訓練　　★集団下校　　★保護者との連携 ★玄関施錠の習慣化 ⑨金銭取扱や情報・文書にかかわる危機管理の対応を徹底する。 ⑩虐待・いじめ・ヤングケアラー等について、今後も関係機関との連携を図る。

8　教育課程編成の基本方針

①小学校教育は公教育であることの認識に立ち、法令や学習指導要領の示すところに従い編成する。
②学習指導要領の主旨を生かし、各教科・特別の教科 道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語科・外国語活動の連携を図り、たくましく生き抜く力を身に付けさせるため、知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成する。
③自らの学ぶ意欲の喚起、学び方の習得、基礎・基本の確実な定着を目指して教育課程を編成する。
④地域の人材や施設等の教育資源を積極的に活用し、特色ある社会に開かれた教育課程を編成する。
⑤令和７年度の授業日数は２０１日とする。適切な授業時数を確保し、本校独自の編成を志向する。
⑥全教職員の連携・協働のもとに、適切な教育課程経営に努める。
⑦教育課程の改善・充実を図るため、記録の累積と評価を行う。

※変化の激しい時代であることから、年度途中であっても実態に合わせて柔軟な対応を行っていく。